



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 年度

広島北ロータリークラブ週報

2011年10月6日発行 Vol. 1288

国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー氏
国際ロータリーテーマ
こころの中を見つめよう 博愛を広げるために
Reach Within to Embrace Humanity

■会長 高原 宏之 ■幹事 栗屋 充博
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例会場 ホテルグランヴィア広島 広島市南区松原町 1-5

■本日の例会 2011年10月6日(木) 第2059回
ロータリーソング 「奉仕の理想」
来客紹介 ローター家族親睦委員会
四つのテスト唱和 職業奉仕委員会
入会式
会員誕生日お祝い
長寿会員お祝い
会長時間
幹事報告
委員会報告
ニコニコ箱
卓話時間 姉妹クラブ友好特別委員会
『京都伏見ロータークラブとの絆と歴史』

前回例会報告 2011年9月29日(木) 第2058回

ロータリーソング 「それでこそロータリー」
来客紹介 ローター家族親睦委員会
会長時間
幹事報告
委員会報告
ニコニコ箱
卓話時間 新会員卓話 「自己紹介」
佐々木 礼正 会員 2011.1.13 入会
河本 浩一 会員 2011.5.12 再入会
中嶋 恒男 会員 2011.7.21 入会

会長時間 会長 高原 宏之

会員の皆さん日本の食生活が欧米化し、疾病も次第に変化しつつある現代ですが、従来からの日本人の塩分の過剰摂取と生活習慣病が関連つけられて、各種疾患の治療から疾病の予防にと重点が移ってきています。

本日は生活習慣病の中で日本人に特に多い「高血圧症」についてお話し致します。

高血圧症は、何らかの原因で血圧が基準値より高くなった状態をいいます。高血圧症を予防するための5つのポイントと注意点について解説します。

ポイント1

塩分は1日6g未満にしましょう。

食卓で使う塩やしょうゆ、ソースの量を減らすだけでなく、加工食品や外食を減らし、家での料理に一工夫することがポイントです。

ポイント2

カリウムを十分に摂りましょう。

カリウムが豊富でナトリウムが少ないキャベツ、ホウレンソウ等の野菜類は毎食、又バナナ等の果物は一日一回食べるようにしましょう。

ポイント3

動物性食品と植物性食品のバランスをとりましょう。

動脈硬化の進行を防ぐには、タンパク質を過不足なく摂ることと併せて、動物性食品に多く含まれる飽和脂肪酸と摂りすぎを防ぐことも大切です。又、動物性食品も植物性食品もいろいろ取り混ぜることで各食品に含まれるビタミン類、ミネラル類、(カルシウムやマグネシウム)のバランスがよくなります。

ポイント4

適正エネルギーで肥満解消を図りましょう。

肥満がある場合は、減量するだけで血圧が下がることも多いのです。肥満がない場合でもエネルギーを摂り過ぎないようにしましょう。

ポイント5

アルコールは適量の範囲を守り、毎日飲まないようにしましょう。

普段飲む習慣のない人は、あえて飲む必要はありません。

(ちなみに日本人の適量をあえて書くならば、ビールならロング1本、日本酒なら一合、ワインなら3分の1本、ウイスキーならシングル2杯まで。女性はこの半分)、

日本人の40歳以上の二人に一人が患者であると言われ、まさに「国民病」とも言える高血圧症ですが、今申し上げました「高血圧症を予防するための5つのポイント」の内、最初にあげた塩分摂取に関するところを少し詳しく述べます。

日本人の高血圧症の原因としては、塩分が高い日本の伝統的な食生活が原因であるとする学会の意見を始め、他国に比べて日本人の塩分摂取量が多すぎる事が従来から指摘されています。

確かに日本人は、国際的に見ても塩分を多量に摂取しています。1日あたりの摂取量は、ヨーロッパ、アメリカで8~10gであるのに対して、日本は11~13gといわれています。味噌や醤油などの調味料、漬け物など塩分が高い保存食などがその原因であると考えられています。適切な塩分摂取量として、厚生労働省では1日10g 未満を目標に掲げています。

一方、WHO(世界保健機関)ではその約半分の6g 未満を推奨しています。日本高血圧学会でも高血圧のある場合は6g 未満を推奨しています。ただ個人差はあり、塩分を摂りすぎると、血圧の影響を受けやすい「食塩感受性」タイプと、あまり影響のない「食塩非感受性」タイプの方がいます。ただし、非感受性タイプが高血圧にならないわけではなく、その他の生活習慣によって高血圧になる可能性はあります。

いずれにせよ、塩分のとりすぎは他の病気の原因にもなります。

皆さん、高血圧症の予防の為に、「塩分の摂りすぎ」には充分注意して下さい。

以上で今週の会長時間とします。

幹事報告 幹事 栗屋 充博

* 明日30日(金)は京都伏見RCとの第23回姉妹クラブ提携継続調印式が京都において開催されます。

* 10月末まで例会のクールビズを実施します。

* 10月卓話予定表(BOX配布)

* 会員増強フォーラム纏め(BOX配布)

委員会報告

職業分類会員増強委員会 鶴飼委員長
 会員増強フォーラムの結果について

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【自主出宝】

高原会員・大之木会員・粟屋会員・岡部会員・合田会員

渡部さん、今日はお越し下さいました。例会前のオリエンテーションでお疲れでしょうが、どうぞごゆっくりお過ごし下さい。来週の入会式を楽しみにしています。

高原会員 ①保田杯での3位は残念でしたが、ハッスルプレーに思わず感動しました。庄子会員その後は如何でしょうか？

②恐羅漢での楽しい思い出は心に刻まれました。

③明日の京都伏見RCとの姉妹クラブ継続調印式は楽しみに行ってきます。

佐々木会員 本日卓話をさせていただきます。拙い話ですが、どうぞよろしくお願い致します。

鶴飼会員 8/4に卓話時間を頂きクラブフォーラムを開催させて頂きました。北クラブの良いところを再確認出来ました。御協力有難うございました。

中村会員 先日、一人娘が結婚致しました。米国に住んでいる娘ですが、孫の誕生を楽しみに加えることが出来ました。

森嶋会員・小田会員 所用のため途中退席させていただきます。

当日計 13,000 円(内、web5,000 円) 累計 350,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=2,000 円

卓話時間

新会員卓話 『自己紹介』

佐々木 礼正 会員 (2011.1.13 入会)



私の事を少しでも知って頂きたい自己紹介をさせていただきます。

私の名前は佐々木礼正。礼儀正しいと書いて“ひろまさ”です。

人生で一度も一回で“ひろまさ”とよんでもらった事はありませんが、漢和辞典には“ひろ”と書いてあります。昭和48年9月に家の真横の産婦人科で生まれました。幼稚園は唯信寺幼稚園、小学校は舟入小学校、中学、高校と崇徳、大学は名古屋にある名城大学に行きました。

記憶にはありませんが小さい時は大きい蟻を見て泣いたりしていたみたいで、可愛らしいと言いますか、ただの弱虫と言いますか、そんな子供だったみたいです。中1の時は寮に入り朝六時半に起きて外で寒風摩擦をしてそれから掃除、寝る前は仏教学校なので黙想をし、お経をあげてから就寝という生活でした。

高校に入ってからはアメフト部に入りましたが練習がとてきつく何度も辞めようと思いましたが、一年生の時は“でっち”と呼ばれていて先輩の世話役をし、先輩が使うテーピングまで“でっち”が買うという矛盾だらけでしたし、声が出てないと言って練習が終わって走らされて、一人でも駄目な奴がいると全体責任で走らされてほとんど練習終わって走らされていました。まだ今と違って水を飲んで駄目と言われる時代だったので、夏とかは2、3人脱水症状で倒れたりすることもありました。僕らの学年は、入部当時は30人ちょっといましたが卒業する時には11人になっていました。

大学でもアメフトをしましたが、また一年生の時はとても大変でした。しかも二年間はアメフト部の寮にいたので一年生はプライベートでも先輩が常にいてまともに休まる時はなかったです。大学にはアメフトをしに行った感じだったので授業にはほとんど行かず、大学四年目のときにはまだ二回生でした。選手としては四年間しか出来ないと言っていたので四年間が終わったら大学は辞めようと思っていたのですが「入ったんなら出る！」と言われ結局六年かけて卒業しました。留年中はコーチとして部にも残りました。その間も色々ありました。練習が嫌で寮で手首を切った者もいますし。(命には問題ありませんでした)合宿中に練習が嫌で自転車を盗んで長野県から何百キロも離れた名古屋まで帰った者もいました。後にコーチは広島に帰ってから崇徳を5年くらいと山口大学を1年コーチしました。大学を卒業してからは先輩の経営する北海道の支笏湖の温泉旅館で約1年働きました。まだ若い北海道にも行ってみたいという理由です。ある日、母親から泣きながら電話がかかって来て「どしたん？」と聞くと「父親が病院に行ったら余命半年と言われた！」という事でした。それを聞いた瞬間、『なんで！まだ親父は59歳なのに！』と愕然としました。それをきっかけに広島に戻りました。広島に戻り家業の「酒屋をする！」と言ったら父親、母親、姉から大反対されました！！もう酒屋の時代は終わったから今からする仕事ではない！と。私は良かった時代の酒屋しか頭になかったのです。父親はサラリーマンで酒屋にはノータッチで元々祖父が学校の校長をしていた時にPTAの会長に酒の間屋さんがいて酒屋はいいからやってみたら？という事で昭和34年から始めたみたいです。昔は従業員もいて町内に根付いた酒屋でしたが、ディスカウントショップが出来た事により売上がどんどん減小し僕が帰ってきた時には給料が取れる状態ではありませんでした。だから皆反対していました。それでも商売をやりたいかったので無理やり押しきってやったのですが、給料が出ないから貯金を削って生活をしていました。ただどうにかしないとイケないのでニーズを調べるためにゴミの日には町内のごみ置き場に何の酒の空瓶が捨ててあるかなどを調べて回ったり、間屋と交渉して安売りもしました。が、忙しいだけで利益が残らないので辞めて、結果的には扱う商品を絞りました。それは僕がお酒が一番好きだったワインです。それから今日のワインを主とした酒屋とワインバーをしています。父親は私が帰って一年後くらい後に亡くなりました。定年も病院で迎え第二の人生を送る事はありませんでした。その年は5月15日に父親を60歳で亡くし、8月15日に元酒屋の従業員で父親の様に私を可愛がってくれた方を58歳で亡くし、祖父を10月20日に96歳で亡くしました。祖父に関してはほとんが大往生とはいえない実の息子を送らなければならなかったことはとても辛かった事だと思います。5か月の間に大事な人を三人亡くするのは家族全員大変な事でした。当時の私はまともな給料を取れていなかったし今後どうしていけばいいのかと、とても不安でした。やっぱり普通にサラリーマンをしようかとも考えました。しかし祖父が亡くなる少し前に私が酒屋を継いでくれて嬉しいと言ってくれたのでやっぱり酒屋で頑張ろうと思ひ、続けました。その後、色々な方々と出会い応援して頂いたり勉強させて頂いたりして今日があるとても感謝しております。私がロータリーに入会させて頂いたのも山坂さん、中根さんの推薦があったからこそですし、ここにいらっしゃる皆様が入会を認めて下さったからだと本当に感謝しております。私の会社はとて小さく皆様にはこんな小さな会社がロータリーに入ってしまう大変申し訳なく思っております。ただ私にとってはとてもいいチャンスを取ったと思っております。仕事面で言えばとてもりっぱな会社の経営者の方々ばかりなのでなんか困ったことがあっても相談させて頂けますし、何より自分の中の天井が遥かに高くなり、今まで仕事に対しての発想がとて小さかったなど反省させられました。人としても変わりつつあると思ひます。今までの人生では奉仕の心という事を全く気にかけてありませんでした。それはどういう事なのかをはっきり理解しているわけではありませんが人として社会に貢献する事の必要性など少しでも意識をする様になってき

ました。この事については今後もロータリーに関わっていくうちにもっと理解出来てくると思いますが自然に身につけていくのではないかと思います。

私はロータリーをとて楽しんでいますが、入会して本当に良かったと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

河本 浩一 会員 (2011.5.12 再入会)



本年5月より北クラブの会員となりました、河本でございます。

ただ今からタイムトンネルでちょうど20年前の1991年(平成3年)~92年(平成4年)の年度に遡りたく存じます。その時会長は、山田木材の山田さん、副会長がドリームベッドの渡辺さんで、幹事は、不肖私がつとめました。ちなみに当クラブの会員数は、101名でした。

ところでご承知とは存じますが、仏教誕生の地インドでは、古来より人生を四つに分けて考える「四住期」という人生観があります。その四つのステージを順追ってゆくのが、理想的な生き方とされています。

さて、四住期の最初の第一期は、「学生期」です。生まれてから25歳までがそれに当たります。生きる基礎知識を習得し、身体を鍛え、体験を積む時期です。

次の第二期は、「家住期」です。25から50歳がこれに当たります。就職して実社会入りし、結婚して家庭を作り子育て、いわゆる社会人の時期です。

次が人生の折り返しの後半である第三のステージが、「林住期」です。50から75歳がそれに当たります。ここでは、今まで築いてきた社会とのつながりを徐々に整理し、自己に向き合い、自分の姿を見、真の自己に目覚める時期です。だから家庭から離れて、一個人として時間をもつことです。乱暴な言い方をすると50歳からは、家出のすすめ、ということになります。

最後が、「遊行期」で、75歳以降がこれに当たります。すべての欲望から自由になり、原初の童心に立ち戻り、旅立ちの準備の時期です。

私が注目したのが、この第三期の「林住期」です。私がこの世に生を享けたのが1942年でのから、冒頭に申しました1991年~1992年度に50歳を迎えたこととなります。まさしく「林住期」に入ったことであり、これを境に、思い切って「林住期」の生き様へと第一歩を踏み出す決意をしたのでした。

私の家族は、家内と三人の息子の5人です。幸い長男は国際人に、次男は金融マンに、三男は食文化のプロに、と方向付けがすでに出来上がっていました。心配なのは家内でしたので、マイホームの資産価値について、森嶋不動産鑑定士に査定をしていただきました。それを家内に譲ることを決意し、ある意味、丸裸になることを覚悟うえ、独居することになりました。

次に会社をどうするかですが、当時砂糖を中心とした食品の卸売会社を経営していました。1962年(昭和36年)、東大の林周二教授が、「流通革命論」という論文が発表されて話題になったことがありました。改めてそれを勉強しなおして大きな衝撃を受け、大鉦を振る決意をしたのでした。その教授によると、これから大量生産~大量輸送~大量消費社会へと市場は変貌してゆく、と環境の変化を強調していました。つまり小規模零細小売店と過剰な卸商は、やがてチェーンストアという大規模店にとって変わり、その本部が卸し機能を果たし、問屋はいらなくなる、いわゆる問屋無用論が強調されていたのでした。

そこで当地に目を向けてみると、昭和40年代、衣類卸の山西商店が、イズミを展開してその先鞭をつけました。これを機に、広島食品問屋の環境は、しだいに地殻変動が生じだして、まずマルニ商会在が菱食に、やがて坂口物産が国分に、そして新見食品が

三井食品に統合されてゆきました。

そんな環境下で弊社は当時、年商60億でしたが、今後卸商として生き残るには少なくとも100億の年商がいると判断して、単独での生き残りを断念しました。主要仕入先の三井物産に仲介を願ひ、同系列下の岡山の会社に弊社の営業部門だけを譲渡することにしました。社屋は譲渡した会社に賃貸することにしましたので、私は卸商の営業業務から手を引くことになりました。

これで家庭・会社、両面のしがらみから解放されたことになりました。そこで日々の生活の基本は、自然の運行に調和するよう夜は9時までに床に就き、朝は4時起床し、早朝5キロ、約1時間のランニングすることから一日が始まりです。そして写経、読書、雑文書き三昧という専ら自己と向き合うことにしました。これまで築いてきた社会との絆を少しずつ断ってゆき、15年間100%出席してきた北クラブも1993年3月末をもって退会することにしました。

そんな日々を過ごしていると次男が、東京の大学を卒業して、広島銀行に就職がきまり郷里に帰ってきました。半年の研修も終わり、三川町支店に配属になりましたので、時々誘っては流川に出かけていました。しばらくして家内から電話があり、息子が家で倒れて救急搬送された、というので病院に駆けつけてみると、医師より肺がん発症の宣告を受けたのでした。まさに晴天の霹靂とは、このことを言うのでしょうか。早速、岩森先生のご協力で広大病院に移し、先進治療がはじまりました。治療の甲斐もあって、職場に復帰するまで改善しました。だが、しばらくすると様態は急変し、あえなく旅立ってゆきました、

——平成8年4月13日、享年24歳でした。

「林住期」のこの20年を生きてきて、私の人生観は、180度変わりました。私たちは、幸せという青い鳥、つまりお金、名声、地位等を必死になって求めてきたのですが、それらは自分からすれば、すべて外物にほかならず、いくらもがいたところで易々と自由になるものではありません。ひと時、青い鳥を手に入れたとしても、すぐにまた次の青い鳥を求めてゆきます。つまり人間は、欲望の塊でありその虜になって際限のない無間地獄へと堕ちてゆくようです。最近、石原慎太郎が、「新・墮落論」を出版し、そのなかで我欲の肥大化が人間を駄目にした、と主張していますが、言い当てて妙です。

とは申せ「家住期」では、お金は何でも願ひを叶えてくれる青い鳥である、と信じていましたので、命を削って蓄えてきました。そこで息子が癌になったとき、家族同様に親しくしていた有名な医師を台湾に訪ねて、入手困難な高額な漢方薬を手に入れて試してみました。また長男がアメリカの大学院を卒業して、監査法人トーマツのニューヨーク事務所に勤めていましたので、アメリカの先進医療も試してみました。だが、お金は、一人の息子の命すら救うことができなかったのです。このとき、何でも希望を叶えてくれるはずだった青い鳥=お金万能神話が、音を立てて崩れてゆきました。思えばお金、地位、名誉等、言ってみれば、それらは外なる価値のために身を粉にして働いてきたわけですから、まさに自分というものが外物によって分断されていたことであり、本来の自分の生を、ないがしろにしていることにほかなりません。

そこで分かったことは、外に求めてきた青い鳥は、すべて幻であったわけで、実は青い鳥の卵が、自分の中にあっただのだ、と気づいたのでした。つまり卵を自らの力で温め、孵化させて自らが青い鳥になって羽ばたくこと、これこそが真の幸せと安らぎを得ることだ、と。それがまさに私の場合、創作活動をしてゆくことと見つけたのでした。

この「林住期」を通して、得がたい生涯の伴侶にも出会い、「道あり、われゆく道に悔いなし」と新たなる第一歩を踏み出しているところでした。

最後に、わが国の人気作家、村上春樹曰く、——もの書きとは、プロの嘘つきだ、と。

ご清聴、まことに有難う存じます。

中嶋 恒男 会員(2011.7.21 入会)



鹿島建設の中嶋です。本日は、私が勤務している会社の紹介をさせていただきます。

当社は1840年、(鹿島岩吉が)江戸で町方大工として創業し、本年で171年を迎えました。創業以来、「進取の精神」を旨として、常に変化し進歩する社会のニーズを先取りし、その結果、「洋館の鹿島」、「鉄道の鹿島」、「原子力の鹿島」、「ダム

の鹿島」、「超高層の鹿島」などと呼ばれ、各時代を代表する工事に携わってきました。中国支店は昭和22年に広島支店として開設され、3年前に中国支店と名称を変えて現在に至っています。私は17代目の支店長です。営業範囲は鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県です。社員数は約390名で、そのうち技術系社員が約260名です。

現在、管内で施工している主な工事としては、まず、鳥取県では、国土交通省の多目的ダムを建設中です。ほぼ完成しています。ダムには水がためられています。

島根県でも、浜田市で島根県のダムを建設中です。こちらはこれから工事が本格化します。

岡山県では、岡山市で病院やマンションの建設工事を行っています。倉敷市では、国家プロジェクトとしてプロパンガス40万tを地下約180mに貯蔵するための工事を施工中です。

広島県では、広島市で建設機械メーカーの工場やマツダの病院、マンションなどを建設中です。庄原市では国土交通省の尾道松江線のトンネル工事を施工中です。

山口県では、防府市で特別養護老人ホーム、周南市で病院を建設中です。

以上が主な工事ですが、その他、随所で事業を展開しています。また、先ほど、昭和22年に支店を開設したと言いましたが、それ以前の時代にも、中国地方でいろいろな工事を行っています。

最初の工事は岡山県庁舎新築工事で、明治11年のことでした。明治13年からは、当社は建築から鉄道工事専門へと方針を変えまして、この地区では明治27年に山陽本線の三原～広島間を、明治33年に山口県厚狭付近の鉄道工事を施工しています。

その後、大正時代には津和野線、福塩線、岩徳線などを手がけています。

また、水力発電所などの工事も行っています。戦時中は江田島や呉で軍の工事を施工していました。

支店の開設後は、瀬戸内海の臨海工場地帯(水島、福山、呉、岩国、徳山等)の工場建設を主体として、高度成長の波に乗り、発展してきました。山陽新幹線や高速道路の建設も盛んになり、繁忙度が増していったようです。

さらには、ゴルフ場の建設や、住宅団地造成、事務所ビル、ホテルなどの建設、原子力発電所の建設や下水道等のインフラ整備などの工事を行って、現在に至っています。

私が支店長就任時に、普段思っていることを社内で話しましたが、その概略を四点に分けて述べさせていただきます。

一番目ですが、当社はものつくりの会社です。「いいもの」を造ってお客様に納め、お客様に喜んでいただくことが一番重要であると考えています。そして、「いいもの」を納めることで、お客様の事業はますます発展し、そのことがお客様の周辺のさまざまな方々、あるいは地域の発展に繋がります。それが、最終的には国民の安全・安心な生活に繋がります。私どもの事業は、豊かな国民生活に大きく貢献しているのだと確信しています。

「いいもの」を造るには、現場だけではできません。営業の力、設計の力、コストに裏付けられた技術力、そして、事務の力が必要であり、こうした多くの社員の汗が流れてから、現場でのものつくり

となります。現場では、品質、原価、工程、安全、環境管理が求められますが、その中で一番重要なのは安全管理であると思っています。現場で働いているすべての人が怪我をしない、すべての人に怪我をさせない、という強い思いで現場の管理をするように指導しています。そして無事竣工を迎えて「いいもの」納めることでお客様に喜んでいただけます。このことがまた次の仕事に繋がると考えています。

二番目ですが、社員にはそれぞれ役割があり、いろいろな場面で活躍してもらっていますが、業務を遂行していると、さまざまな課題に直面します。そうしたときには、ひとりで悩まず、上司、同僚に相談するように、また部下に意見を求めるように指導しています。ひとりで仕事をしているわけではないので、課題に対しては組織で対応し、また「なににごともあきらめずにやり遂げる」という強い信念を持って対応すると、必ず解決策が出てくると考えています。

三番目は、自分の健康と家庭を大事にすることです。今、会社で働くことができるのは、健康であり、家庭に心配事が無いからで、家族が自分を支えていることを忘れないようにと話しました。健康は自分にとっての財産のひとつです。そして社員は会社の財産です。ただ、当社は受注産業ですので、自分で業務の繁忙時期をコントロールできません。仕事をしなければならないときは、止めるわけにはいきません。そうした事情を十分理解して、各部署の責任者には、社員の異動時、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休暇などを軸に、社員本人がリフレッシュする時間を、また家族との大事な時間を過ごせるように、計画的に休暇を取得させるようにと話しました。

四番目ですが、企業活動にはコンプライアンスの遵守が重要です。企業の目的は「利益」を得ることですが、かつては、利益創出の方法が議論されることはありませんでしたが、近年は、情報の隠蔽や企業モラルの欠如等の不祥事によって、経営陣の交替や、あるいは企業そのものが市場から退場宣告を突きつけられるような事例があります。仕事をしていればさまざまなリスクがあり、企業活動は利害関係者との関わり合いのなかで成り立っており、その活動は社会から常に監視されているといってもいいかと思います。問題が発生したら、また問題の発生が懸念される状況になったら、必ず連絡、相談をするように、こうした問題は会社に致命的な損失を与えることになる、ということを再認識するように話しました。

以上、当社の紹介と、私自身が思っていることを話しました。最後になりますが、私どもの仕事は、お客様の思いを具現化することです。いわば、私どもはお客様の手であり、足でありますので、何かございましたら、ぜひともご相談ください。

■出席報告 出席委員会

2011年9月29日(木) 会員総数81名
出席 66名 欠席 15名
来客 3名 ゲスト 1名
9/8例会M-up 後出席率 100%

■来客紹介 ロータリー家族親睦委員会

深山 英樹 様 (広島)
仁田 一也 様 (広島東南)
賀谷 俊幸 様 (広島陵北)
渡部 哲生 様 (入会予定者)

■次回例会ご案内 2011年10月13日(木) 第2060回

食事:和食
13時より職場訪問のため移動
広島生活習慣病・がん健診センター